

## 第13回 再生普及小委員会 出席者名簿 (敬称略、五十音順)

### 個人[4名]

清水 信彦  
白谷 和明 平和システム研究所 調査研究員  
高橋 忠一  
鶴間 秀典

### 団体[8団体/8名]

釧路国際ウエットランドセンター [菊地 義勝]  
釧路自然保護協会 [会長 神田 房行]  
釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局次長 菊地 義勝]  
釧路シャケの会 [事務局長 小杉 和寛]  
こどもエコクラブくしろ [サポーター 近藤 一燈美]  
財団法人北海道環境財団 [内田 しのぶ]  
さつぼろ自然調査館 [代表取締役 渡辺 修]  
特定非営利活動法人くしろ・わっと [成ヶ澤 茂]

### 関係行政機関[5機関/6名]

環境省 釧路自然環境事務所 [所長 北沢 克巳]  
林野庁 北海道森林管理局  
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター [所長 中島 章文 / 自然再生指導官 朝倉 基博]  
北海道 釧路支庁 [地域振興部環境生活課 自然環境主任 石井 弘之]  
釧路市 [環境政策課 自然保護担当 菊地 義勝]  
標茶町 [企画財政課 観光振興係長 中島 吾朗]

### 資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、  
釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
<http://www.kushiro-wetland.jp/>

### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAX・Eメールにて事務局まで御連絡下さい。

## 釧路湿原自然再生協議会運営事務局

[TEL]0154-23-1353  
[FAX]0154-23-6839  
[E-mail] info@kushiro-wetland.jp



# 釧路湿原 自然再生 協議会

# 再生普及小委員会 ニュースレター

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

REGENERATION  
SPREAD  
SUB COMMITTEE  
NEWS LETTER

Vol. 13  
発行日：平成21年8月31日



細岡展望台から望む釧路湿原

## 2009年6月4日(木) 「第13回 再生普及小委員会」が 釧路市民活動センター「わっと」 で開催されました。

### 開催概要

「第13回再生普及委員会」が平成21年6月4日(木)に、釧路市民活動センター「わっと」で開催されました。  
小委員会には、18名(個人4名、団体8団体8名、関係行政機関5機関6名)が出席しました。今回は、再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告と再生普及行動計画の見直しについて活発な質疑がかわされました。また、6月23日の環境教育WGについての検討と、7月9日の釧路市教育研究センターの研修についての紹介が行われました。



## Discussion about Regeneration of Kushiro Marsh

### 再生普及行動計画ワーキンググループの2008年度結果報告について

ワンダグリンダプロジェクト2008年実施報告と報告書の作成について、再生普及行動計画ワーキンググループ(以下行動計画WG)の取り組みについて事務局より説明があり、その後意見交換が行われた。

このようなことが話し合われました。

委員長 委員 事務局

ワンダグリンダ2008の特色は企業の参加、応募者同士が連携した取り組みの実施、立体折り紙など芸術的な取り組みが増加した点である。4年間で取り組み数も少しずつ増えている。例年通り報告書を作成し、関係する公共の場、イベントでの配布を予定している。

行動計画WG事務局の2008年度の新たな取り組みとして2回のフィールドワークショップと自然再生に情報発信の協力者を募るワンダグリンダ推進サポーターの募集を実施した。

著しくではないものの順調にワンダグリンダ参加団体・個人が増えているのはよいのではないかと。

釧路湿原の存在や必要性についてはよく知られているが、自然再生の具体的な内容に関してはまだ一般に知られていない。

環境教育の報告書はよい。報告書の存在によって今後は各団体や学校の活動がひろがりを見せていくのではという印象を持っている。

ワンダグリンダ取り組み内容には規模の大小はあるが、それぞれがんばっており、地に足のついた活動が多い印象を受ける。報告書に載っている活動は、色々なレベルで活用、応用できそうである。

釧路湿原を再生することが環境問題としてどのような意味があるのか考えなければならない。「徐々に増加」とは、実際は行き詰まり状態であるように思う。釧路湿原の再生という限られた範囲で考えるのではなく、人間生活の中でいかに自然を再生していくかという社会全体の環境問題と絡めた視点がないと飽きられると思う。

ワンダグリンダ参加取り組みの内容や参加者がマンネリ化していると感じる。そろそろ方向転換が必要だと思う。いくつかの団体が集まって協力して何か取り組むなどもよい。

報告書の存在や配付場所を知らない人が多いという印象。海外で会った外国人が映画を通して釧路湿原を知っていた実体験から、関心のある人はいろいろな媒体を通し情報を得ているものと感じている。

全国的にみてもこれほど地域の多彩な人たちが参加している事例はないだろう。まず5年間ということまでこまできているのは成果である。

しかし熱心なのは関心の高い一部の方々であり、市民の8割は関心がないのが現状といえる。次の5年では長期的な視野にたち、少しずつターゲットを狭くしながら現在関わりのない層を取り込んでいく仕掛けをする必要がある。国立公園は利用者に良質な自然空間を提供する場であるが、これは地域の人々の参加があっただけでは活かされると考えている。釧路湿原は地域にとっては特別な場所ではなく生活の一部でもあると日々認識していただけるような取り組みが必要だと思う。

宿泊施設が行っているエコポイント等の取り組みが釧路湿原再生事業に還元されること、還元されることを通じて再生事業をPRしてもらえたらよいのではないかと。

釧路以外から来ている委員には取り組みに参加している宿泊施設を利用していただくなど、既存の取り組みを関連させて活かしていけたらよいのではないかと。

「10の分類」については「解りにくい」、「簡略化すべき」などの意見があるが、どうか。

自然と歴史など、カテゴリーとして分けにくい内容も、今は分けられている。「自然再生」という言葉はブラックボックス的。一般の人から見ると幅広い意味でとらえられすぎて、どこまでの内容までを含むものかわかりにくい。

釧路湿原のイメージとして「豊かな」など、枕詞的に漠然としたレッテルがはられている。しかし現実に自然再生は環境が劣化している、という前提がないと成り立たない。その両者が市民の中で混じっているように感じるが釧路の外から見てどのような印象か。

知名度調査の結果のうちJR釧路駅やビジターセンターは外からきた人が多い場所のもの。

市民が多い場所のサンプルはショッピングセンター等で十分なのかどうか。

地域、世代別に色々と分析が必要であろう。

例えば子供は学校の環境教育で強制的に湿原に行かされると思うが、それがどれだけ有効なのか、大人になってそれが湿原への関心へ繋がるのかどうかなど。

ある範囲の中で熱心に活動をやっているものの、そのメンバーの外へ活動が広がっていかないというのは市民活動のここ数十年の課題である。早急な解決手段は見出されないとしても、同じ事を繰り返さないよう何かアクションを起こしていく努力が必要と感じる。

その他について

6月23日に環境教育WGを開催し、先般作成した環境教育事例集をどのように活用し学校での環境教育を推進していくかについて検討する。

また7月9日に釧路市教育研究センターで教職員を対象とした研修があるが、このうちコマを環境教育WGが担当し、自然再生事業についての説明、環境教育の実践例について紹介する。

行動計画見直しについてのアンケートに協力をお願いしたい。

- 行政関係の取り組みを外して比較したら、一般、民間の人の参加数のアップ率はもっと高い。  
応募取り組みを10の分類に当てはめる形ではこれまでの参加傾向がわかりにくい。参加のきっかけ(パターンのなもの)を分析すれば今後の方向性が見えやすいのではないかと。
- 釧路市民活動センター「わっと」で報告書の配付をしているが、最初2年ぐらいは新聞に載った直後、1日に10名程度とりにきた。最近は報告書がはける部数が少ない。  
報告書を釧路以外のワークショップなどに持って行くと好評。関心を持ってもらえる。釧路の人にもっと読んでほしい。

ワンダグリンド2009の応募状況と2009年度の行動計画WGの予定について事務局より説明があり、その後意見交換が行われた。

- ワンダグリンドプロジェクト2009へは現時点で43団体75取り組みの応募があった。2009年度の取り組みの特徴として、「エコツアー」を実施する企業の参加、学校単位での参加(阿寒高校)、文化施設・個人の取り組みの参加(図書館、アイヌ語勉強家)などがみられた。  
行動計画WGの取り組みは2008年度の内容を一部拡充しながら引き続き実施する。「知名度アンケート」は、行動計画WGのメンバーの協力を得てサンプル数を増やすとともに、聞き取り時にワンダグリンドプロジェクトについての普及啓発を行う予定。  
2005年度より実施してきた再生普及行動計画は5年間実施し評価・見直しを行うこととなっている。5年目にあたる今年度はこの作業を行う。詳細は次の議題で説明する。

(質疑なし)






# Discussion about Regeneration of Kushiro Marsh


## 再生普及行動計画の見直しについて


再生普及行動計画の見直しについてこれからの作業スケジュール、4月26日実施の行動計画WGにて構成員から出された意見の内容について事務局より説明があり、その後意見交換が行われた。


このようなことが話し合われました。


 委員長  委員  事務局

 2009年度中に普及再生行動計画の見直しを行い、2010年度は新たな計画に基づいての実施としたい。今回の再生普及小委員会、行動計画WG、関係者への直接ヒアリング等で収集した意見をふまえて10月の行動計画WGで見直し素案を作成・審議し、11月に再度行動計画WGで検討の上、WG素案を11月の再生普及小委員会で審議し、素案を作成する。その後自然再生協議会に素案を諮り、承認を得る予定。事前にワンダグリンドプロジェクトの10の分類毎の取り組み数の変化を示したグラフと現行の再生普及行動計画の冊子を資料として配付、本日配付の参考資料には4月に実施した行動計画WGで挙げられた意見を掲載している。これらを参照しながらご意見いただきたい。

 毎年5月に「森と川の月間」と称し、清掃、植樹、自然保護のセミナーを実施する協議会や団体を、町が後方支援しながら実施している。例えば「釧路湿原を美しくする会標茶支部」の主催で、釧路湿原の塘路湖周辺の清掃などの活動を行っている。地域の住民が行っていることが直接自然保護や「ワンダグリンド」につながっているという意識のリンクはできていないと思う。標茶町は釧路川や西別川などの上流域に位置している町である。釧路湿原だけではなく環境保全に対する意識をした地域住民による生産活動が必要だと感じている。

 参加の増加はできる人ができることからやっていった成果だが、裏返せば「できる人」や同じようなグループのひとしか参加していないということ。その枠を超えて一般の方への間口を広げるといふ部分にはまだ至っていないと思う。一般の人が報告書や10の分類を見たときに、自分自身が参加できるという印象を持っていないと思う。人によって湿原への興味の方角性と現実に関われる方法が異なる。これからは一般の人にわかりやすい分類に基づいた情報提供ができるとうい。

 釧路支庁でも環境については重視しており、自然ツーリズム担当が新設されるなどの動きもある。支庁内でも横の連携をとり前向きに取り組む必要があると感じている。

 地域に自然再生の取り組みを知らせる、体験の機会を作るといった取り組みをしているが、現状では、広報手段も限られ巻き込むのが難しい。地域の人に浸透させていくのはひとつの大きな課題であるが、長期的に、地道に継続していくのが大切であると考えている。

REGENERATION SPREAD  
SUB COMMITTEE  
NEWS LETTER

